

平成 27 年度第 3 回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会 会議録

- 日 時 平成 27 年 12 月 17 日（木）午後 3 時～午後 5 時 15 分
- 会 場 鶴岡市第三学区コミュニティセンター大ホール
- 委員出席者 鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会委員 16 名
(名簿資料【0-0】のとおり)
- 市側出席者 市民部長ほか鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会幹事、事務局 30 名
(名簿資料【0-1】のとおり)
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 2 人

(午後 3 時 開会)

1 開 会 (進行：コミュニティ推進課長)

2 挨 拶 (市民部長)

3 協 議

(事務局) 資料 1 に基づき説明

(委員長) ただいま事務局からは、事前の委員からの意見等により、修正した部分や、検討した結果について報告があったが、さらに多くの委員から意見を頂きたい。

(委員 A) 私も仕事で、様々な集落の座談会等に出ると、若い世代が多い集落はすごく活気があって、やはり高齢者だけの集落となると活力が無いというか、活動も弱まってきている、弱体化してきていることがよく話題にあがる。そういったことを踏まえ、この計画をみると、羽黒地域・温海地域については、若い世代との関わりを明文化にして、重要視していることがわかるし、共感できる。他地域においても重要なのは説明を聞いてはわかるが、このように明文化してもいいのではないのか。

(委員長) 資料 2 にある、4 の意見とも関連している。今の意見とあわせて、事務局でどのように検討をしたのか、説明をお願いします。

(事務局) 地域ごとに取組みの内容が違っている、こういった差異は、初めから地域ごとの計画をつくれれば、その特徴として出てくると想定している。地域によって、今後 5 年間を通して、何を最も重要なものとして載せていくかを検討したうえで記載しているものであるが、意見を踏まえ地域ごとに再度検討したい。

市のコミュニティ施策にも、「若者」「子育て」がはっきりと出てこないとの意見もあるが、項目立ては、はっきりとはしていないが、「コミュニティ意識の醸成」、「地域の支え合い体制づくり」で、多世代の交流や、地域での支え合いの中で、高齢者だけでなく、子どもたちも包含しての表現にしている。なお、ただいまの意見により、こういった表現に

するかは、改めて検討したい。

(委員K) 市全体で考えていくということであれば、順番として、「市のコミュニティ施策」を最初に持ってきて、それを地域に広めていくという構成にしたほうが、わかりやすくなるのではないか。

(委員長) 全体の構成について、順番、あるいは読みやすさとか理解しやすさとか、他に意見があるか。

(委員L) 「計画の基本的な考え方」を、「地域コミュニティをめぐる現状」の前に持ってきた方が、計画の趣旨がより理解しやすくなるのではないか。

(委員C) 特に4の(7)「市のコミュニティ施策」をどこに置くかということが重要で、これを個別の地域課題、地域づくりの取組みの前に置くか、後に置くのかでかなり意味合いが変わってくると思う。前にあれば、まず市がコミュニティ施策というものを打ち出して、それに沿って地域課題をやっていくと見えるし、そうではなく後のほうに市のコミュニティ施策を独立させるのであれば、ボトムアップというか、各地域から出きたものを束ねたものが市のコミュニティ施策だなと見える。そこは組み換えする時に注意したほうが良い。

一般的な計画は、市の施策を先に出した後、地域の取組みを挙げる形が多いと思うが、今回は、地域の方々から、たくさんアイデア、取組みが挙げられ、それを支援する形で市が施策を打ち出している。これまでの経過からもそう捉えたほうが良いし、そこが今回の計画のオリジナルなところかなと思う。

(委員A) C委員と同じで、「計画の策定にあたって」の文中にも、「各地域の現状に合わせて」、「地域の特性を活かして」という文言があり、また23ページの図で地域ごとに取り組んで市全体を盛り上げるというイメージがあることから、地域の特色、取組みを先に置いて、最後に市全体でまとめるというイメージを持ったところである。

(委員長) それから、資料2の7の意見について、計画9ページからの部分について、意見、疑問点について、事務局での検討はいかがか。

(事務局) ご指摘のとおり、地域ごとの表現が、比較すると同じ項目であっても、文言がばらつきがあり、この部分については、もう一度整理をして載せていきたいと考えている。

(委員長) K委員やC委員からも意見があったが、資料2の9番と11番の意見で、「取組み事例」をどう位置付けるか、また、扱うかで、意見としては、もっと広く周知すれば活用できるのではないかということだが、これは後で、色々検討していくこととし、何かこれに関連して「取組み事例」の扱いについてあるいは中身、取りあげた事例についてなど、意見はあるか。

(委員P) 「取組み事例」について、以前も意見を出したが、事例は非常に参考になるのでよ

いが、この計画の中に入れることでよいのかどうか。計画とは別なものとして、参考資料として位置付け、新しい事例を追加しながら、別の冊子などでまとめていくのはどうか。

(委員K) ここに取り組み事例があることにより、非常にわかりやすく、大変効果的だと思う。計画の期間を5年間とするならば、冊子にして使うことを考えると、ここに掲載の事例に限定せず、考えたほうが良い。市のホームページにも取り組み事例については、内容が全部載っていたので、今後、各地域活動センターやコミセンで、いつでも情報を共有していくということが、大変有効なことだと思うので、別冊でもよいが、その場合は、どんな情報がどこに載っているということを情報発信し、関係者や、一般市民がわかるようにしていくことが、活性化につながるのではないかと。

さらに可能であれば、例えば、転入者等には、その転入先の地域の事業や、例えば子どもがいたならば、家族の状況に合わせて、地域の情報を色々出せるよう考えていただければありがたい。

(事務局) 取り組み事例の周知をはじめとする情報発信については、ご意見を参考にして、市のホームページに掲載するなどし、内容についてもこれから最新の事例を随時盛り込みながら、工夫して参りたい。

(委員長) 資料2で、5番と6番、10番についての具体的な担い手とかキーパーソンなどについて、事務局の方から何かありましたらお願いします。

(幹事：学校教育課長) まず、「特色ある学校づくり」については、主語は「学校」と捉えていただいて結構かと思う。次に仙台市のように、教職員の身分で嘱託社会教育主事の配置はできないかという点は、まず教職員の身分で配置ということは、仙台市は政令指定都市であり、独自に教職員の採用が可能なので、嘱託社会教育主事の配置をすることができる。山形県では、教職員の配置は、県の教育委員会が行っているため、市の考えで配置というのは難しい。

現在、全ての小中学校には、生涯学習担当ということで、教諭を配置し、学区の中の色々な方とのつながりや、色々な事業について、調整役をすることになっている。また統合校には現在、県の教職員が一名、加配ということで配置されており、統合校の子どもの安定というところを担っている。あと、統廃合により廃校となった学校から教職員は必ず統合した学校に一名配置されるようになっているので、例えば湯田川、田川が新四小になったが、そこに、湯田川小・田川小から教員が新4小に人事異動されている。つながりを大切にし、それぞれの地区の事情を知っている教員が統合校に配置されており、統合校で廃校となった学校の地域の行事を、新しい学校で実践したりなど、そういった活動を行っている。

(事務局) まず、資料2の5に関連し、市のコミュニティ施策57頁、「時代へつなぐコミュニティ意識の醸成」について、特色ある学校づくりについて、学校が主で実施するものだが、本計画は、あくまでも地域が主体ということでつくっていくこととし、もっと地域と学校の連携をとりながら進めるという方向で修正していきたい。

コミュニティ支援員については、主に広域コミュニティの強化を図るという目的をもって、地域と連携を図り、そのなかで、学校との連携の強化が地域課題となっていれば、そういった活動も行うことになる。

事前質問 10 の生涯学習推進員の役割が、今後、多様化、重要になってくるため、研修を充実させたい。地域にとって生涯学習推進員がこのような役割を期待しているということを、今後、今回の計画と合わせて十分説明していきたいと考えている。

(委員 K) コミュニティ支援員が配置されるということで、これは大変前向きで進歩だと思う。言葉、役職だけが先行して、例えば学校で生涯学習担当、地域との関わり担当というのが、実質教頭先生が担っているなど、各学校の運営によって違っているようだ。

特に感じたことは、小学校に地域に対する窓口体制を置くなど、前向きな姿勢がないと統合された地域は寂しくなり、地域の活性化が懸念されてくると思うので、ぜひお願いしたい。この前、旧朝日地域の駅伝競走大会があって、中学生、高校生達が走っている様子を YBC で 30 分番組で放送されたが、果たして朝日地域だけでも学校やコミュニティセンター等にテレビ放送される情報が入っているのか。内容も非常に良く、単独での田麦俣チームがこれが最後だという盛り上がりや、さらに新たに体制も構築していくという明るい見通し等もあり大変関心した。

(委員 H) この計画を見ると、やはり生涯学習推進員への期待が大きいと感じる。自らも生涯学習推進員として任命されているが、課題解決に向かうこと等、そこまで求められているとは、自分も、また他の推進員も思っていない状況である。今後は、そこまで求められるのであれば、研修の際、より実践的な研修会などをして、スキルアップにつなげていかなければならない。また、そこまで求められるのであれば、やはり人選と、人材育成というのがとても重要になるのではないかと、いうふうに感じている。

(委員 J) 今、K 委員からあった教育委員会と学校との連携というのが非常に重要だと思いい、いろいろ考えると地域においては、学校との連携だけではなく、産業分野とか、福祉とか観光とかありとあらゆる分野を地域の中で一元化していく必要があると思う。今回のコミュニティ推進計画ではなく、上位の市総合計画になるのかもしれないが、行政の縦割りを前提としながら、いろいろ部署を駆け回って情報を一元化して伝える人、それが、コミュニティ支援員というのか、まずはそういった人、しくみが必要と思う。

(委員長) 関連して、福祉分野では、地域福祉計画と地域福祉活動計画の策定を予定されていて、特に活動計画の方は地域ビジョンと同じように地域の支え合いプランを目指し、同じ地域単位でコミュニティとまさに一体的な話が進んでいるのではないかと。地域は一つなので一つで取り組めるようなことだと思うが、L 委員どうか。

(委員 L) 今、市の福祉課で地域福祉計画を、社会福祉協議会で地域福祉活動計画を作っている。我々としては、もうちょっとコミュニティとの連携という観点で、このコミュニティ推進計画に福祉的なところを、もうちょっと書き込んでもらえればありがたいと思っていたが、2 本立てで、「地域課題」と、「安心・安全」ということで、それに策定されて

いると感じた。

地域福祉計画・活動計画の中では、地域ごとの福祉の活動計画を作ろうということになっており、藤島地域は、既に策定し、色々なプロジェクトが動いている。その他の地域では、3月くらいになるとできあがってくる。鶴岡地域では、第五学区でのみ策定されているが、マンパワー不足で手が回らないということもあり、もし、地域ビジョンをコミュニティで仕掛けていくのであれば、ぜひ社会福祉協議会の「支え合いプラン」を加味したような形で、ご配慮いただければありがたい。要は、社会福祉協議会の職員も入り、行きつくところは住民福祉なので、一緒に動いて作ってもらいたいと思う。

また、見守りが必要なのは高齢者だけでなく、地域の中においては障害者や、生活困窮世帯、母子世帯など様々な方々がいて、その人達の見守りが必要だということになるので、コミュニティの計画においても、ご配慮いただきたい。

それから、各地域の「計画の構成」ということで、地域ごとの計画の柱が図として示されているが、これに地域名とその地域のスローガンをいれると、この図だけで、どの地域がどうなっているかがわかるようになる。そういった体裁にするとそこで完結するので、よいのではないかな。

それから、各地域の具体的な取り組みのところだが、「単位自治組織の課題と取り組み」は単位自治組織が主語で、「広域コミュニティ組織の課題と取り組み」は広域コミュニティが主語になるのであろうと思うが、主語がちょっと合わないなというところがあるので、合わせたほうがよいのでは。

また、取り組み事例は、例えば計画全体にコラムとして散らしておくやり方も、読んだときに、ちょっと頭休めになることもあるのでどうか。

それから、庁舎地域で広域コミュニティが立ち上がっているが、その活動支援と書いてあるが、組織運営の技術的支援、広域コミュニティが円滑に運営されるための支援というのは必要ないのかどうなのか。要するに、事業計画の立て方とか予算の立て方、会議の持ち方など、様々な運営、集まりをしていくうえでの実質的な支援を、必要だとすれば市で全面的に支援すると言う書き込みをしてはどうか。

(委員 I) お金の出し方を、もっと工夫してもらいたい。自分のまちを見た時に、人口が、一万から八千となり、「なぜ、こんなにいなくなるの？」となる。若い人達は全部、鶴岡地域に出ていく。若者がいなくなる、子供達がいなくなるという現象は、地域では本当にある。私達は、本当に切に、人がいなくなっているのをどうするのだということから始まったのではないかな。ここに掲げていることも大事なことだが、人口減少により、まち全体が死んでしまう。村が無くなる。それを、皆さん自分達で現地をみてほしい。道路や、暮らし、若い人達がなぜそこから出たくなるのかを、見ないとわからないと思う。私たちの小さい地域は合併して損ばかり。明かりもない、大きいまちに明かりをつけている。逆に私は何もない所に明かりをつけて欲しい。明かりを付けて明るくして、住民の人達がここでいい、今幸せだ、そう思う人がいれば、必ず人は増えるのではないかと、それが大きいところにばかり目を向けている。小さいところはどうするんだと、「がんばれよ」、「何かあったら手伝うよ」、そういう姿勢が見えない。「維持可能な地域づくり」ただの言葉を文面にしている。でも、そこで生きている人はそこで、なんとか暮らそうとしている。その人達の負担を軽くしてやったらいいのではないかな。負担を軽くして、住みやすいまちづく

りを考えていないと、本当に町はなくなってしまう。若い人がいない。誰がするのか。その地域に行ってみて下さい。小菅野代に行くと、誰もいません。誰にも会いません。家には全部鍵かかっている。お家の中にも不安になっている。その中で、若者が毎日、鶴岡に働きに行き、酒田に行き、生活している。今回の推進計画をみて、自分の身は自分で守らなくてはならないということを感じた。

(委員F) 生涯学習推進員のことだが、私も推進員をしており、色々研修会などに参加しているが、研修と現場の差が激しく、研修で聞いたことを現場でやろうとするけれど、できないという実態がある。研修にいくと夢が大きくなる、現場に来るとつぶされる現実があるので、だったら“自分でなくて誰かやるだろう、”となる。今の朝日地域の生涯学習推進員は、ある意味で充て職みたいなもので、この地域から1名と選ばれている。それで、活動に行ったり行かなかったりという状況となっているが、本来、生涯学習推進員というのは、コミュニティの部分で、根幹をなす部分を担っている人たちだと思う。それが、やはり、充て職ではだめで、自分がこの地域をよくしたいという熱い思いを持っている人が生涯学習推進員として動いていくべきだと思う。それが最終的に、一番先頭に書いてある市民が主体となる地域づくりにつながっていくと思う。このままでは、行政が主導権を握ってやってしまう。本来、コミュニティというものは、行政とのパートナーシップだし、パートナーシップのなかでも、市民が主体となる。主体性ある市民をいかに育てるか、地域で活躍してもらおう場をいかに作るかという環境づくりをいかにするかが、一番考えていかなければならない部分だと思う。この計画は、いい文章だなと思うが、一体誰がやるのと思ったときに、人がやるわけなんですよ。選ばれたからやるとか、そういう人がやってはいけない、この鶴岡市は血の通っていないような地域になってしまう。血の通った暖かい地域をつくるためには、暖かい血をもった人が役を持つべき。人づくりというものを具体的に前に出して、鶴岡市はこういうふうに通ってコミュニティをつくるんだというふうな文面を掲げてもらいたい。

(委員D) 先日スーパーに立ち寄った際、入口に老婦人が倒れていた。すでに、ある男性が心肺蘇生、心臓マッサージをし、周囲で3名位の人たちが救急車の件等を話をしていました。たまたま遭遇したが、自分は何もできなかった。今、住んでいる地区も、高齢者が増えていくということは、必然的に周囲で死亡する人が増えるということ。目の前で倒れていたら、若しくは福祉の見守り活動などをしているときにそんな場面になったら、自分も何か手立てをしたいと思う。常日頃から、年に1回でもよいので救急救命等の講習会、練習してはどうかと。それと、山奥・離島は、救急車が来るまでに時間がかかるので、その間で生死を彷徨うこともあると思う。そのためにAED(自動体外式除細動器)を例えば大字単位に一つ、あるいは小学校区に一つなど、値段も高額になるが、設置をしたらどうかと思う。そして年に1回は自治会長や若い人たちが研修をして、自分達で地域を守っていくという意識を機会として設ける。いざという時は、やはり身の周りに誰か助けてくれる人がいるから、その中で結束が強まる。自分達のことは自分達でまかなうという姿勢のもとに、津波や洪水など、いざという時も、消防団と同じですが、村の人同志が力を合わせてやるものなので、結束を強くすることにもつながるし、AEDを各集落に一つとか、救急救命の講習年に1回とかあってもいいのではないかと思います。

(委員M) 市の施策の 57 ページ、コミュニティ意識の醸成のところ、具体的な取り組みとして、世代間交流事業や青少年を対象とする事業、これは学社連携事業とあって、非常に大事だと思う。これらの事業を積み重ねていって、若い人が成長し、巣立っていくんだと思う。一気に色々言われても無理だと思う。

22 ページにある地域ビジョンだが、我が地区では、ビジョンの策定に向かっている。世代間で交流しながら色々な意見を出し、子供達から高齢者、あるいは主婦層も含めて、情報交換をしながら、地域ビジョンをつくっていこうとなっている。

学社連携事業等、事業を通じて、若い人達へ伝達していくことが我々のやるべきことと思っやっている。そのなかで、3 ページ・4 ページに世帯数と人口が年代別にあるが、15 歳～64 歳と非常に広い区分となっており、これを 2 つ位の年齢層に分けられないものか。そうすると世代の構成がわかり、一世帯あたりの人数や世帯構成もみえてくる。そして、10 年後・20 年後になったら一人世帯がかなり多くなるというようなことも。そういったもう少し詳しいデータを見ながら、若い人に働きかけながら、ビジョンづくりをしていきたい。表をもう少し細かくしてほしい。

(委員G) 推進計画を読むと、各地域でのビジョン策定というのが大変重要になってくるようだ。各集落、自治会ごとに自分達のまちのイメージを持つこと、どういうまちにしていくなのかというイメージを持ってないと、ただ住んでいるだけで、単なる寝泊りするだけのまちという感覚でしかない。このまちをどうしたいか見せるために地域ビジョンというのは大切になってくるだろうと思うが、地域ビジョンって何なのかなと説明が少ないし、小さく書いてある。これを大きくしてはどうか。地域ビジョンから、アクションプランが始まると、これから集落ごとに始まるわけなので、もう少し、わかるようにしたら、これからも動きが見えてくるのかと思う。

うちの商店街でビジョンを策定するよう市から求められた。どんなまちにしたいかと。それで 5、6 年かかった。一つにまとまること、合意形成が出来ない。商店が 50 軒しかないが、実際に大変な作業になった。実際アクションする計画になると、総論賛成、各論反対となり、2、3 回ワークショップしたらできるようなものではない。覚悟をして向かわなければならないと思う。

(委員長) 5、6 年喧々諤々とやりながら、その中から生まれてきた事業とか、相互理解とかも進んだりしたことがあるのではないかなと思うが、覚悟してという発言もあったが、そのサポートはどうするのか。私は「地域ビジョン」というものは、多様でいいと、こういう市の計画書みたいなものではなくてはいいと思う。絵みたいなもの、スローガンみたいのもいいと思うが、合意形成をしていく、一緒にやっていこうという仲間を増やしていく過程がおそらく大事だと思うので、行政計画と同じようなものではなくてもいいし、そこまで、誰が主導となってやっていけるかなど、意見をいただきたい。

(委員N) 私も温海だが、先ほどの I 委員の発言がまさにそのとおりである。51 ページ、52 ページ温海地域の取り組みがあるが、第一に役員の担い手の確保が難しい、その中でも役職が多くて負担が大きいいため、その軽減を図るとなっているが、そう掲げながら、これだ

けの課題、取り組みというのは本当に誰がやるのかという感じがする。

そういったなかにも、一点、52 ページの後半、防災への対応について、消防団員の確保を若干加えてもいいのかなと思う。

(委員B) 大変良くまとまっているなと思うし、先ほど来、「誰がするのか」というと、もう、元も子も無い。どうしても人がいなくなったら、なるようにしかならない。

私も生涯学習推進員をやっているが、生涯学習推進員で人を育てながら、逆に自分が育ててもらっていると楽しんでさせてもらっている。これだけまとまってからは大きく変えるのも大変だと思うので、これはこれでいいのかなと感じている。

(委員J) 担い手という部分で、地域ごとの担い手の育成や、地域を好きな人を育てる、あるいは、地域に出てくる人を育てるような声が上がっているが、状況としては、「待った無し」なので、野球でのFA（フリーエージェント）のような、地域でやれる人を、地域外から持ってくる仕組みをやってもよいのかなと。23 ページの図の中には当然コミュニティはイコール自治組織となっているが、それは住民主体で当然だが、自治組織の中で会長は、やはりたいへんだと、例えば住民からの苦情対応、様々な書類を裁かなければならないなど、いろいろな面があるが、一部をNPO法人や企業を入れたりなど、大変な部分を請け負う仕組みとかがあると、地域の人、取りつきやりやすくなるのかなと思う。一部それは役所がやってくれという発想はあるとは思いますが、その担い手としては、役所だけではなく、やれる人がやる。もしかしたら隣の自治会かもしれない、自治組織、自分のところで全部やってくれよというより、FAで取ってくるというようにしなくみがあれば、住民がやる気が出ると思う。

(委員P) 私は、住民自治組織、町内会長の代表として、この委員をしているが、I委員から、誰がやるのかとあったが、これは私達の覚悟だと思う。私達がやらなくてはいけない。温海地域の人が鶴岡地域に流れていくとあったが、同じ鶴岡地域の中でも私のところも、昔からの町で、うちの町内会は、毎年人が少なくなっている状況である。みんな高齢化で、町の中に産業もなく、温海地域と同じような問題を抱えている。この計画は、全部やれでは無く、こういう問題を解決するための手法として、こういう事があると、市でもこういう支援があると、これを参考にして「自分達がやるしかない」ということだと思う。大変ありがたいと私は理解している。

(委員長) 皆さん、同じ気持ちだと思うが、「待った無し」の状況について、その危機意識については、若干この場のなかで、意識の違いがあるのではないかということが、先程、I委員からあったと受けとめている。全市的にもっと協力していくことが大事だと思う。こういう話し合いができることが、行政施策とそれから地域の現場の結節点だと思うので、行政も一生懸命サポート、何ができるのか。行政にも、たくさんの課題がある中で、現場は「待った無し」の地域や様々な地域差がある。委員の皆さんがブレーンでもあり、それをもとに行政も色々検討していくのかと思う。今日の意見を踏まえて、事務局でまとめてパブリックコメントに向かい、まだまだ、もっとここを変えたほうが良いなど、具体的な意見だと反映しやすいと思うので、今後も意見を出し、次回は、今後に向けて、具体的に

取り組みそうなことや、アイデアを持ち寄り、また、どうやって地域ビジョンを進めるのかなどの意見を聞いていきたい。皆さんには、大事な発言、ご協力いただきありがとうございました。その他が無ければ、事務局にお返す。

(事務局) 委員長、誠にありがとうございました。また、委員の皆様にも長時間にわたり、活発なご議論をいただき感謝申し上げます。なお、今後のスケジュールについて、ご説明をさせていただきます。年明けまして1月にパブリックコメントを実施いたします。それから、2月中旬～下旬になりますけれども、第4回この委員会を開催させていただきたく存じます。具体的な日程のつきましては、改めてご案内いたしますのでよろしくお願いいたします。これをもちまして、平成27年度第3回鶴岡市地域コミュニティ活性化推進委員会を閉会します。